

切迫早産について

○どんな病気？

子宮の出口（子宮頸管）が短くなったり開いたりして早産の可能性が高まった状態です。子宮の張り（緊満）がある場合や、自覚症状がない場合があります。

○原因

膣からの感染や、子宮頸部円錐切除後、多胎妊娠、前回妊娠時の早産歴、羊水過多などがリスクとなります。

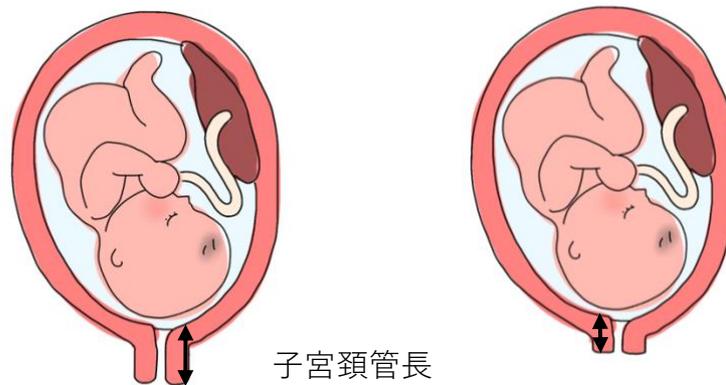
○治療

子宮の張りを抑えるために安静が必要です。それでも症状が改善せず、早産の危険が高いと考えられる場合は入院とし、子宮の張りを抑える薬（リトドリン、硫酸マグネシウム）を、状況に応じて点滴投与します。

妊娠 34 週未満で早産になる可能性が高いと考えられる場合は、赤ちゃんの合併症（呼吸障害・脳出血など）を予防するために、お母さんにステロイドの筋肉注射を行います。

子宮の出口を糸で縛る（縫縮術）治療は、子宮収縮の自覚が乏しいにも関わらず妊娠 20 週台前半までに頸管長が短くなった場合に行うことがあります。

また、前回の妊娠経過から頸管無力症が疑われる場合は、妊娠 14 週ごろに予防的に行う場合があります。



正常な状態

頸管が短くなった状態